

## はじめに

NHK NEWSLINE のテキストシリーズが刊行されてから、本書で 6 冊目を迎えることができた。これも皆さま方のご支援によるもので心より感謝申し上げる。

日本の英語教育が国際的にあまり評価されていないとは言え、少しずつ伸びているのは確かである。文科省によれば、英語能力試験の結果は毎年右肩上がり、令和 3 年の高校生の CEFR A2 (英検準 2 級レベル) 相当 (以上) の割合は 46.1% (10 年前は 30.4%) である。また高校の英語教師も、令和 3 年で CEFR B2 (英検準 1 級レベル) 相当 (以上) の割合は 74.9% (8 年前は 52.7%) となっている。しかし、国際的信頼を得るためには、グローバルなコミュニケーションの手段としての英語に更に拍車をかけなければならない。

日本ではオミクロン株変異種への感染拡大により、都市部の大学などでは対面授業が完全復活を果たしていない。しかし外出自粛が推奨される中、それを逆手にとって学生の皆さんは自宅でじっくり実力を養う好機ととらえることもできる。オンラインの英会話レッスンは、安全にしておかつ効果が期待できる。それと並行して、会話の前提となるリスニング能力を伸ばす本書のような教材も積極的に活用できる。

会話は音声のインプットとアウトプットの合わせ技だが、外国語は徹底的に聞いて模倣するという姿勢が常に必要である。従って伝統的な反復練習や文型練習は、語学学習者にとって必修である。目で追うだけではなく何回か反復して「音読」しておこう。音読しておけば記憶に定着しやすく、会話でもとっさの時に出てくるという利点がある。学習者にとって外国語の会話は (運動競技と同様に) スキルであり、練習によって積み上げた「記憶」が頼りなのである。

本書はリスニングを中心課題に据えたニュースの視聴覚教材である。ニュースは NHK 海外向け放送の NEWSLINE から採択し、適切な長さに編集した。この番組は現代日本の主な出来事や経済、文化、科学の最近の動向などを簡潔にまとめており好評を博している。

語学は授業中の学習だけではじゅうぶんではない。現在、ニュース映像がオンラインで視聴可能となった。自宅で納得するまで繰り返し見てほしい。その際、まず完成したスクリプト (News Story の穴埋め問題終了後) を見ながら音声と意味の対応を頭に入れ、その後は文字を見ないで聞くという作業が必要である。この繰り返しが何回かあれば、文字なしで映像音声の理解ができるという快感が味わえるようになる。

末筆ながら、本書の作成に関して金星堂編集部をはじめ関係スタッフの方々に大変お世話になった。更に出版にあたって NHK、株式会社 NHK グローバルメディアサービスの皆様にも映像提供などで御協力をいただいた。ここに厚くお礼を申し上げる。

## 本書の構成とねらい

本書は全部で15単元 (units) からなり、各単元とも、①日本語のイントロダクション、② Words & Phrases、③ Before You Watch、④ Watch the News、⑤ Understand the News、⑥ Listen to the News Story、⑦ Review the Key Expressions、⑧ Discussion Questions という構成になっている。このうち①と②は説明で、③～⑧が練習問題である。

### ① 日本語のイントロダクション

この短い日本語の説明（約140語）は、ニュースの要点を把握することを目的としている。外国語のリスニングには、何がどのように飛び出してくるかわからないという緊張と不安が常に伴うので、このように限られた背景知識 (background knowledge) でも、予め準備があると安心感が出るものである。

### ② Words & Phrases

比較的難しいか、カギになる語彙や熟語などを学習する。ここで意味的、文法的知識をつけておけば、ニュースを聞いた場合に戸惑いは少なくなる。必要に応じて簡単な例文も入れている。

### ③ Before You Watch

ニュース映像を見る前に、その予備知識を獲得したり話題を膨らませたりする意味で単元ごとに違った課題が用意してある。内容的には、日常会話表現の学習であったり、社会・文化に特有な語彙を英語でどう言うかといった課題であったりする。方法としても活動に興味を持てるように、ややゲーム的な要素も入れるようにしてある。英語の語彙を縦横に並んだアルファベット表から見つけ出すタスクや、クロスワードの活用もその例である。

### ④ Watch the News — 1st Viewing

ここで初めてクラスで映像を見るわけだが、課題はニュース内容の大きな流れや要点の理解が主となる基本的把握である。設問が3つあり、各問とも内容に合っていればT (= True)、合っていなければF (= False) を選択し、問題文の真偽を判断する。外国語のリスニングはしぜんに耳から入ってくることがないので、集中して聞く必要がある。必要に応じて随時、視聴の回数を増やしたり、問題と関連する箇所を教師が集中的に見せたりするということが過去の経験から有効である。

## ⑤ Understand the News — 2nd Viewing

同じニュース映像をもう一度見るが、内容についてのやや詳細な質問となっている。次の2種類の下位区分がある。ここも必要に応じ、複数回のリスニングを考慮してほしい。

- 1 最初の視聴と比べて今度は選択肢が3つになっており、内容もより詳細にわたる設問が用意してある。各問、左端の3枚の写真は、参考にはなるが、問題を解く上でリスニングのキーとなる部分の映像とは限らないので注意してほしい。
- 2 単元によって、何種類か様々な形式の設問が用意してある。いずれもニュース内容の確認を目的としている。例えばニュースのまとめとなる「概要」や「入手情報の順序づけ」、要点となる数字の記入などである。さらに、設問によっては、ややゲーム的な要素を考慮し、アルファベットの並べ替え (unscrambling) を入れている。

## ⑥ Listen to the News Story

これはニュース映像に対応するスクリプトであるが、完全なものにするには「穴埋め問題」を解く必要がある。問題は合計7問で、各問題に6～7か所の空所がある。解答するには、スタジオでややゆっくり読まれた音声CDをクラスで(各2回繰り返し)聞きながら書き取り作業 (dictation) をする。スクリプトのそれぞれの問題には、右端におおよその日本語訳(数字以外)が付けてあるのでヒントになる。書き取りが完成すればニュース映像の全文が目で確かめられるが、スクリプトは映像を見る前に読むことはせず、まず何回か視聴して上記④と⑤の設問に解答した後に、この穴埋めに挑戦してほしい。

## ⑦ Review the Key Expressions

ここでは、映像で出てきた単語や熟語などのうち応用性のある表現に習熟することがねらいである。そのような重要表現の意味や用法を確実にするとともに、英作文があまり負担なく身につくように単語を与える「整序問題」形式(4問)を採用した。ただし選択肢の中に錯乱肢 (distractors) を1語入れ、適度に難しくしてある。文例は当該単元の話題とは関係なく、いろいろな場面の設定になっている。

## ⑧ Discussion Questions

最後の問題として、クラス内での話し合いに使える話題を2つ用意してある。当該単元に関連した身近な話題が提示してあるので、短く簡単な英語で自分の考えを表現してみる、というのがねらいである。(ご指導の先生方へ：クラスによっては宿題として、話すことを次回までに考えておくというスタンスでもよいと思われる。この話し合いの課題は、人数や時間などクラス設定との兼ね合いから、用途に応じて柔軟に扱うのがよいと考えられる。)

# NHK NEWSLINE 6

## CONTENTS

- UNIT 01** **Invention Needed: The Sillier the Better** ..... 1  
「くだらないものグランプリ」 [3分14秒]



- UNIT 02** **Artisan from Abroad Protects Tradition** ..... 7  
筑前琵琶——イタリア人職人の思い [3分27秒]



- UNIT 03** **World Traveler, Starting by Accident** ..... 13  
世界をつなぐ<sup>おとぎち</sup>音吉 [2分42秒]



- UNIT 04** **International Volunteers Help Children in Need** ..... 19  
国際子ども食堂 [3分27秒]



- UNIT 05** **Public Servant Goes Private** ..... 25  
買い物難民を救え——元官僚、IT企業へ [2分30秒]



- UNIT 06** **Hiroshima Hibakusha Determined to Share Story** ..... 31  
英語を始めた被爆者 [3分41秒]



- UNIT 07** **Building Playgrounds in Disaster-Hit Communities** ..... 37  
被災地の子どもに遊び場を！ [3分29秒]



**UNIT 08** **Climate Change Activist Comes of Age** ..... 43  
高校生、COP での気づき [ 3分 38秒 ]



**UNIT 09** **Tech for Pets Takes Off** ..... 49  
ペットテック [ 2分 51秒 ]



**UNIT 10** **Hairdressers Given a Shot at Independence** ..... 55  
モール型のヘアサロン [ 3分 10秒 ]



**UNIT 11** **Japanese Tradition Reinvented to Help Global Farming** ..... 61  
土俵の技術でアフリカを支援 [ 3分 30秒 ]



**UNIT 12** **Green Tea Shochu Hits the Spot with Overseas Connoisseurs** ..... 67  
新風味 — お茶と焼酎のミックス [ 3分 12秒 ]



**UNIT 13** **Looking to the Future in 'Jeans Town'** ..... 73  
縫製ユーチューバー [ 3分 30秒 ]



**UNIT 14** **A Recollection of Courage** ..... 79  
9.11 テロ、消防士の想い [ 2分 53秒 ]



**UNIT 15** **Indoor Farms Sprouting Up in Cities** ..... 85  
最新技術で都市型農業 [ 2分 51秒 ]



# UNIT 01

# Invention Needed: The Sillier the Better

「くだらないものグランプリ」



「くだらないものグランプリ」という大会が開かれた。コロナ禍で活気のない世の中を元気にしようと2020年から始まった。今回は愛知県小牧市の千成工業が作成した、おにぎりから苦手な具を抜き取る機械『グナッシ〜』が優勝した。製品の有用性は限定的でも、町工場が培った技術は確かなものと、大会への評価は高い。

放送日 2021/11/11

## Words & Phrases

CD 02

以下の単語や熟語の音声聞きながら発音に注意し、意味を確認しましょう。

- gadget** (目新しい) 装置、道具
- ingenuity** 発明の才、創意
- COVID-19** 新型コロナウイルス <Corona, Virus, Disease, 2019> を組み合わせた造語
- pandemic** パンデミック、世界的感染症
- to cheer <someone> up** <人> を元気づける
- to weld** <金属など> を溶接する
- air duct** エアダクト、通風管
- filling** 中身、(中に入っている) 具
- contraption** (珍しい) 仕掛け
- to come up with** ~を思いつく

**例文** The CEO *came up with* a way to use his workforce more efficiently.

最高経営責任者は、労働力をもっと効果的に使う方法を思いついた。

- expertise** 専門知識

**例文** Your *expertise* in AI will be very useful for our project team.

人工知能に関するあなたの知識は、私たちのプロジェクトチームに大変役に立つでしょう。

- trivial** 些細な、取るに足らない
- to showcase** ~を売り出す、紹介する

## Before You Watch

以下は、歴史的な発明に関する問題です。下の枠内から適切な語彙を選び、空所に入れましょう。

	Inventor	Known for	Country
1	Johannes Gutenberg		Germany
2	Leonardo da Vinci	Flying machines	
3	Benjamin Franklin		U.S.
4		Steam engine (condenser)	Scotland
5	Edward Jenner		
6		Dynamite	
7		Telephone	U.S.
8		Electric lamp	
9	Karl Benz		Germany
10	Wilhelm Roentgen		
11		Airplane	U.S.
12	John Atanasoff et.al.		U.S.

Alexander Graham Bell	Alfred Nobel	James Watt	Thomas Edison
Wright brothers	Electronic digital computer	Lightning rod	
Motor car (Petrol)	Printing press	Vaccination	X-ray
England	Germany	Italy	Sweden
			U.S.

## 1st Viewing >> Watch the News

ニュースを見て、内容と合っているものはT、違っているものはFを選びましょう。

1. An aim of the competition was for teams to invent silly gadgets. T・F
2. More than 20 small companies participated in this year's contest. T・F
3. A member of the winning team gained weight after eating a lot of rice. T・F

1 ニュースをもう一度見て、各問の空所に入る適切な選択肢を a ~ c から選びましょう。



1. After working on the device for a couple of months, the team \_\_\_\_\_.
- had gotten tired of eating too much rice
  - neatly removed the center
  - tried using a new kind of sheet metal



2. This team decided to invent an *onigiri* filling remover because \_\_\_\_\_.
- one member disliked a filling
  - most fillings are too salty
  - rice balls are healthier without filling



3. The narrator says that some workers \_\_\_\_\_.
- suggested having a nationwide competition
  - complained about not having enough time
  - learned new skills or information through this contest

2 以下はニュースの概要です。空所に適切な単語を書き入れましょう。語頭の文字（群）は与えてあります。

Factory workers in Aichi Prefecture joined a contest to create ( **s** <sup>1</sup> ) inventions. The contest was designed to ( **c** <sup>2</sup> ) up people during the pandemic. A small factory with 13 ( **e** <sup>3</sup> ) won the first prize. They designed a special device to ( **re** <sup>4</sup> ) *onigiri* fillings which they don't like. Even though there was no need for this device, the team's ( **cr** <sup>5</sup> ) was excellent, and such inventions may lead to the development of new products.



## Listen to the News Story

CD 03

CDの音声を聞いて、News Storyの①～⑦の文中にある空所に適切な単語を書き入れましょう。音声は2回繰り返されます。

**Anchor:** Factory workers have been testing their wits against each other in an unusual competition. The aim is to create silly inventions that are clever but largely pointless **gadgets**.

① We (                    1 ) (                    2 ) (                    3 )  
5 (                    4 ) (                    5 ) (                    6 )  
(                    7 ) and **ingenuity** of these engineers.

**Worker:** Using this opener, you can open bottles while social distancing.

**Narrator:** Workers at 19 small factories battle to create the silliest

10 inventions. ② These items are the result (                    1 )  
(                    2 ) (                    3 ), (                    4 )  
(                    5 ) (                    6 ).

The contest was launched in Aichi Prefecture, home to a thriving manufacturing sector in 2020 during the **COVID-19 pandemic**. Participating factories want to **cheer people up** through the power of invention.

**Woman:** (*She announced the winner.*) Congratulations.

**Narrator:** The first prize went to a factory with 13 employees in Aichi Prefecture. The company processes and **welds** sheet metal to manufacture shelves, **air ducts** and machine tools. The prize-winning gadget takes out the fish or vegetable **filling** of an *onigiri* or rice ball.

This **contraption** can remove the *onigiri's* filling, but neatly leaves some rice and the seaweed wrapping.

25 ③ The idea was inspired by an incident (                    1 )  
(                    2 ) (                    3 ) (                    4 )  
(                    5 ) (                    6 ).

30 ④ One day the president bought *onigiri* (                    1 )  
(                    2 ) (                    3 ) (                    4 )  
(                    5 ) (                    6 ) (                    7 ).

Although they were happy to get something to eat, one of the

① すばらしい熟練の技を見ていきましよう

② 彼らの好奇心や熱意や創造力の

③ 会社で起こった

④ 残業をする彼の従業員たちのために

employees did not like the filling in his rice ball.

The staff **came up with** the idea of creating a tool that can remove it. The team has **expertise** with sheet metal.

5 **5** But even so, ( 1) ( 2) ( 3) ( 4) ( 5) ( 6) ( 7). As they experimented, they ate lots of *onigiri*. And one of them put on five kilograms. After two months, they could create highly accurate parts for their invention.

**5** あまりよく知らないものを創り出すのは難しい

10 **Hori Takayuki (Sennari Industry): 6** It is able to cleanly ( 1) ( 2) ( 3) ( 4) ( 5) ( 6) ( 7).

The reason why it's silly is that if you don't like the filling, you can just eat a plain rice ball.

**6** ご飯をあまりむだにせずに、具を取り除く

15 **Narrator:** The purpose of the competition was to create silly inventions. But for some companies, it was an unexpected opportunity to acquire new knowledge.

20 **Man: 7** Through the project, I was able to develop skills ( 1) ( 2) ( 3) ( 4) ( 5) ( 6).

**7** 以前使ったことがなかった

**Woman:** Staff fairly new to the company and with no manufacturing experience were able to participate.

25 **Narrator:** Members of the winning team say they realized the importance of carrying through with an idea, even if it seems **trivial**.

**Kimura Shoji (Senior Managing Director, Sennari Industry):** Everyone agreed it's important to pursue silly ideas. Otherwise, manufacturing would be no fun and technology would never improve.

30 **Narrator:** These silly inventions **showcase** the superb craftsmanship of the manufacturing sector that may even lead to the development of new products. In the meantime, they are stimulating the employees' creativity and imagination.

## Review the Key Expressions

各問、選択肢から適切な単語を選び、英文を完成させましょう。なお、余分な単語が1語ずつあります。

1. そのボランティアたちには、病院のみんなを歌で元気づけたいというしぜんな気持ちがあった。

The volunteers ( ) a ( ) ( ) to  
( ) ( ) everyone in the ( ) ( ) ( )  
their songs.

with had desire cheer natural hospital down up

2. たとえ完全に理解できなくても、他の宗教や文化をもつ人を尊重することは大切である。

It's important ( ) ( ) ( ) with different  
( ) and cultures, ( ) ( ) you don't  
( ) understand them.

completely to people how even respect if religions

3. 私たちは渋滞に巻き込まれたんです。そうでなければずっと前に来れたんですけど。

We ( ) ( ) in a traffic ( ), ( ),  
we would ( ) ( ) much ( ).

earlier got catch jam have arrived stuck otherwise

4. さ来週学年末試験をやりますので、その間に今学期学習した語彙を復習しておいてください。

I will give the final exam the ( ) ( ) next. ( )  
the ( ), ( ) all the vocabulary we ( ) studied  
this ( ).

review in term week were meantime after have

## Discussion Questions

1. Think of a useful invention which is impossible now but may be possible in 100 years. How could it change society or daily life?
2. Think of a sports game or award ceremony you saw. Who won a top prize? Why was it memorable?